自分らしく、よりよく生きる力をはぐくむ学校　研究通信 Vol.5

Try Your Dreams!

2026
10
文責　大淀小学校研究部

10月27日（火）５年生が研究授業を実施しました！



令和８年10月27日第５時限に、第5学年において総合的な学習の時間「米作りを通して」の研究授業を実施しました。

本時（第４時「収穫に向けて」）では、写真や動画、社会科資料集を活用し、「稲刈りのやり方は昔と今でどのように変わったのだろう」という中心課題を設定して学習を進めました。児童は、昔と今の稲刈りの道具や作業方法についてグループで比較・分類しながら、機械化によって作業時間や労力が大幅に軽減されたことに気付きました。



さらに、道具や方法は大きく変化しても、「よりよい米を届けたい」「安全でおいしい米を育てたい」という生産者の思いは変わらないことについて考えました。そして、機械化が進んだ現代においても、手作業による稲刈り体験を行う意義について話し合い、米作りの苦労や工夫を実感すること、生産者への感謝の気持ちを深めることの大切さを捉えることができました。本時を通して、児童は米作りへの理解を深めるとともに、今後の収穫体験への意欲を高めることができました。

みんなはどう考える？　～どうして私たちは手刈り体験をするのか～



児童は、昔と今の稲刈りを比較する中で、機械化が進んだことにより、作業にかかる時間や手間が大きく減り、少人数でも効率よく作業できるようになったことに気付きました。また、高齢者でも作業がしやすくなり、生産量の増加や作業の負担軽減につながっていることを捉えていました。

農家の方々の思いについては、「消費者においしいお米を届けたい」「安全・安心なお米を食べてもらいたい」という願いが共通していることに気付きました。また、米作りを続けたいという思いや、多くの人にお米のよさを知ってもらいたいという考え、人の手による丁寧な作業も大切にしたいという考えについても理解を深めることができました。

	昔の米づくり（1970年）	今の米づくり（2023年）	よかったこと
道具	かま	コンバイン	・時間が短縮された事 ・高齢者の人でも簡単にできる。 ・手間がかからない ・少人数で作業ができる
作業時間	約１２０時間	約２０時間	
米の生産量（10aあたり）	約４００Kg	約５００Kg	

変わらない思い　お米を作る楽しく笑顔な思い
・食べるもらう人に美味しく食べてほしい・安心、安全なお米をつくる思い

児童作成の「今と昔の米作りの比較」（一部）

その上で、「なぜ手刈り体験をするのか」という問いに対して、児童からは、「昔の稲刈りの大変さを実際に体験し、農家の方々の苦労を知るため」という考えが多く見られました。また、機械を使えば効率よく作業できる一方で、手作業で行うことで米作りの苦労や収穫の喜び、食べ物の大切さを実感できると考えていました。

さらに、「昔から受け継がれてきた稲刈りの方法や日本の農業文化を知り、次の世代へ伝えていくことが大切である」という意見も多く見られました。機械化が進んだ現代だからこそ、昔の方法を体験することで、先人の知恵や努力を理解し、伝統を守り続ける意識につながると捉えることができました。



今後の学習！実際に体験することを通して・・・

11月には待ちに待った稲刈りを行い、収穫の喜びや米作りの苦労を実感します。12月にはお米贈呈を予定しています。収穫したお米は家庭科の調理実習でも活用し、自分たちが育てたお米を実際に味わうことで、食への関心や感謝の気持ちを高めていきます。加えて、社会科で学習する農業や食料生産、家庭科における食生活の学習とも関連付けながら、多面的に学びを深めていく予定です。4月から続けてきた米作りの学習もいよいよフィナーレを迎えます。1年間の学びを振り返り、食や農業の大切さについて考えを深めていきます。